
肉

ゴンギツネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

肉

【Nコード】

N5126Z

【作者名】

ゴンギツネ

【あらすじ】

私は、怖い夢を見た。

（前書き）

ワカメの西美さんから、その夢（私が見た夢）を小説にしてみました？ との神の言葉に等しい助言を頂いたため、小説化しました。ワカメの西美さん、ここを見てくれたら、ありがとうございます。

夢を見た。かなり、ホラーで怖い夢を。

「このパスタを食べないと殺す。だから、食べ」

いきなり浴びせられた言葉。いつの間にか、広い草原に居た。見ると、そこには女。

そのパスタには、緑色の——キャベツみたいな物質と、赤いパスタ。それと、市販のものとは思えない肉。

「この野菜は何ですか？」

そう聞くと、答えが返ってきた。イライラとした口調で。

「芋虫をすり潰したやつ」

知らぬが仏とは、まさにこのことだろう。でも——私の好奇心は、終わらない。たとえ、それが、どんな答えでも。

「このパスタは何ですか？」

見るからに毒々しいパスタ。やはり、答えは返ってきた。

「アリクイの舌」

前言撤回。こんな答えなら、聞かなければよかった。

アリクイ。たしかに、アリクイの舌は長い。そして、舌だから赤いのだろう。そういえば、牛タンもこんな色をしていた。……現実逃避は、ここまでにしよう。

「じゃあ、この肉は——？」

「死刑囚の肉。死刑囚だから、殺しても構わない」

某名前を書くノートを拾った、主人公の思考だ。……私は、人肉を食べなければならないのか。でも、殺されるのは嫌だ。

恐る恐る、フォークを口に運ぶ。……意外と美味しい。牛タンの味はしないものの、普通に塩味のパスタだ。

こんな夢。食べた後に、意識が消えたから、続きは分からない。

夢なのに、味があるとはどういうことだろうか。

ともあれ、私はもう、この夢を見る事はなくなった。でも、私は思いもよらない自体に遭遇する。それは、今日の昼のことだった。

チャイムの音。4時間目の終了の合図である。

「起立！ 礼！」

日直の声を境に、お弁当が始まる。私は、頬杖をついて、今日の弁当は何だろうか。パスタと――肉？ あのメニューと、そっくりだ。

「このパスタを食べないと殺す。だから、食べ」

いきなり浴びせられた言葉。いつの間にか、広い草原に居た。見ると、そこには女。

あれがデジャブだとは、誰が考えただろうか。私は、何も聞かずに、パスタを口に運んだ。

(後書き)

オチが読めてしまうお話です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5126z/>

肉

2011年12月17日12時56分発行